



グッドデザイン大賞受賞! 障がいの有無に関わらず 誰もが遊ぶことのできる遊具プロジェクト

株式会社ジャクエツ(本社:福井県敦賀市/代表取締役社長:徳本達郎)の遊具研究プロジェクト「RESILIENCE PLAYGROUNDプロジェクト」が公益財団法人日本デザイン振興会が主催する2024年度グッドデザイン賞において、受賞作1,579件の中から最も優れたデザイン1件に贈られる「グッドデザイン大賞(内閣総理大臣賞)」を受賞しました。今年度のテーマである「勇気と有機のあるデザイン」として高く評価されました。



GOOD DESIGN AWARD 2024
グッドデザイン大賞

▼紹介動画はこちら



遊具研究プロジェクト RESILIENCE PLAYGROUND プロジェクト



受賞した遊具プロジェクト

【概要】

「障がいの有無に関わらず誰もが遊ぶことのできる遊具」の開発を医療と遊具の分野を越えて実現したプロジェクト。

医療的ケア児の「遊びたくても遊べない」という課題に注目し、様々な個性をもつ子どもたち、医師、ケアスタッフ、遊具デザイナー、地域住民が携わり3つの遊具を開発。遊ぶきっかけが地域に増え、幸せが広がる未来を描いています。

【審査委員の評価コメント】

「遊び」は人間の根源的な欲望であり、創造力の源となる活動である。そんな遊びから最も遠くに置かれた重度心身障害児や医療的ケア児に向けたアプローチは海外を中心に広まりつつあるが、遊びを引き出すような工夫や事例はまだまだ少ない。このプロジェクトは、さまざまな特性を持つ子どもたちと医療・ケア・地域という分野を超えた協働によって具現化された、貴重な事例であると言える。遊具があるということは、家族が共にいられる居場所があるということでもある。今後も多様な家族がいる風景を日本に広げていくことを期待したい。



受賞式の様子

写真提供:日本デザイン振興会

【開発者のコメント】

株式会社ジャクエツ スペースデザイン開発課 主任 田嶋宏行

遊びと医療の間にある「遊べない」という状況、問いに対して向き合い、最初は小さく始まったプロジェクトです。

監修いただいたオレンジキッズケアラボの紅谷浩之先生をはじめ、ケアラボの子どもたちやケアスタッフの皆さん、福井県に住む地域のプレイヤーの皆さんなど様々な方たちに助けをいただき、常に医療的ケア児たちと一緒に遊びながら突き詰めていきました。福井県で始まったこのプロジェクトが、世の中の「しょうがない」や「仕方ない」を少しずつ変えて、誰もが幸せに遊んで生きられる、やさしい社会を育むものになればと願っています。

【株式会社ジャクエツ】

1916年創業。「未来は、あそびの中に。」をスローガンに掲げ、企画・コンサルティングから設計、施工、運営管理まで、地域社会や施設の課題解決に向けたサービスをワンストップで提供する。近年は包括連携協定の締結やPark-PFI事業への参入など、あそびの視点を活かしたまちづくりに取り組む。質の高いあそびの環境をデザインすることで、子どもたちの成長とともに大きく花開いていく「未来価値」を創造し続ける。

【お問い合わせ】

株式会社ジャクエツ

東京都港区高輪4丁目24-50

TEL:03-3442-2260/FAX:03-3442-2261

MAIL:press@jakuets.co.jp

広報担当者にご連絡ください。